

環境アセスメント及び演習

Environment Impact Assessment and Exercise

非常勤 稲垣隆司

e-mail:

授業内容

- 概要** 環境影響評価法の手続きや特徴などを学ぶとともに、公有水面埋立事業や土地造成事業など大規模開発事業の事例をもとに、環境影響調査の実施方法（調査・予測・評価・環境保全対策・事後調査等）や調査を実施するに当たって注意すべき点などについて学ぶ。
- また、環境影響評価法の問題点と今後の展開方向（戦略的環境アセスメントの意義と必要性等）についても併せて学ぶ

授業予定

- 1回 環境影響評価制度の変遷と環境影響評価法の内容について説明する。
- 2回 環境影響調査の実施方法の概要について説明する。
- 3回 環境影響調査のうち、大気、悪臭に係る調査方法等について説明する。
- 4回 同上（第3回の続き）
- 5回 環境影響調査のうち、水質、底質、地下水、土壌・地盤に係る調査方法等について説明する。
- 6回 同上（第5回の続き）
- 7回 環境影響調査のうち、騒音・振動・低周波音、温室効果ガス、廃棄物に係る調査方法等について説明する。
- 8回 環境影響調査のうち、動物・植物に係る調査方法等について説明する。
- 9回 環境影響調査のうち、生態系、人と自然とのふれあい、景観に係る調査方法等について説明する。
- 10回 道路建設事業に係る環境影響評価手法について説明する。
- 11回 公有水面埋立・廃棄物処分場整備事業に係る環境影響評価手法について説明する。
- 12回 火力発電所建設事業に係る環境影響評価手法について説明する。
- 13回 大規模土地造成事業に係る環境影響評価手法について説明する。
- 14回 環境影響評価法の問題点と今後の展開方向（戦略的環境アセスメントの意義と必要性）について説明する。
- 15回 定期試験

教科書

必要な教材を作成配布する。

参考書

学習到達目標

- ① 開発行為に伴う環境配慮に必要性を理解するとともに、環境影響評価手法に関する知識を習得する。

授業の方法と特徴

- ① 県内で実施された具体的な開発行為を例題にして、開発行為を実施する場合の環境配慮事項及び環境影響評価手法を説明する。

成績評価の方法

- ① レポートにより評価を行う。
レポート未提出の場合は不合格の対象になる。

教員からのメッセージ

- ① 環境への配慮、特に自然環境への配慮方法については、色々な方法・考え方が有り、一つの正解はないと考えている。従って、是非、自分なりの考えをまとめ、授業の中で意見交換・発表をしてほしい。